

留 学 報 告 書

記入日:2018年6月15日

所属学部／研究科・学科／専攻	商学部
留学先国	アメリカ
留学先高等教育機関名 (和文及び現地言語)	和文: カリフォルニア州立大学ロングビーチ校 現地言語: California State University Long Beach
留学期間	2017年8月～2018年5月
留学した時の学年	3年生(渡航した時の学年)
留学先での学年	3年生(留学先大学で在籍した学年)
留学先での所属学部等	<input checked="" type="checkbox"/> 特定の学部等に所属しなかった。
帰国年月日	2018年5月21日
明治大学卒業予定年	2019年3月
留学先大学について	
形態	<input type="checkbox"/> 国立 <input checked="" type="checkbox"/> 公立 <input type="checkbox"/> 私立 <input type="checkbox"/> その他
学年暦	1学期:8月下旬～12月下旬 2学期:1月下旬～5月下旬 3学期: (記入例/1学期:4月上旬～7月下旬, 2学期:9月中旬～2月上旬)
学生数	37446
創立年	1949

留学費用項目	現地通貨 (USドル)	円	備考
授業料	12800	1400438 円	
宿舍費	7650	836980 円	
食費	3380	369803 円	
図書費	400	43764 円	
学用品費	40	4376 円	
教養娯楽費	0	0 円	
被服費	200	21882 円	
医療費	0	0 円	
保険費	457	50000 円	形態:
渡航旅費	1646	180000 円	
雑費		円	
その他		円	
その他		円	
その他		円	
合計		円	

渡航関連

渡航経路: 成田空港—ロサンゼルス空港

渡航費用

チケットの種類	エコノミー
往路	90000
復路	90000
合計	180000

渡航に際して利用した旅行会社やガイドブックを教えてください。

ろばのみみ社

滞在形態関連

1)種類(留学中の滞在先)(例:アパート、大学の宿舎など)

大学の宿舎

2)部屋の形態

個室 OR 相部屋(同居人数 2人)

3)住居を探した方法:

大学側からの紹介

4)感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)

シャワーは共用なので、次第に入る時間が暗黙の了解と化してきます。

現地情報

1)現地で病院にかかったことはありますか? 大学内の医務室/診療所や付属病院等で医療サービスを受けることは可能でしたか?

利用する機会がなかった

利用した:

2)学内外で問題があったときには誰に相談しましたか。留学先大学に相談窓口はありましたか。

教授

3)現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか? その際どのように対処しましたか?

日本の大使館から送られてくるメールや現地のニュース

4)パソコン、携帯電話、インターネット(接続について)現地での利用はいかがでしたか。

(例:寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェでは WIFI 接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)

学校が wi-fi を設置していたのでそれを使用できたため、何も問題はなかった。

5)現地での資金調達はどのように行いましたか? (例:現地に銀行口座を開設して日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)

親が日本の銀行に振り込み、こちらでクレジットカードを使用した。

6)現地では調達できない日本から持っていきべき物があれば教えてください。

ペーパータオルやボディシートの類

7)【授業料負担型の方】授業料の支払方法、支払時期等について教えてください。(例:渡航前に自分で指定したクレジットカードで支払った、現地で開設した銀行のチェックで支払った、渡航前に留学先大学から指示があった、渡航後のオリエンテーションで支払いに関する案内があった等)

授業料の支払い時期は学校側が提示してくれた。支払いはデビットカードを使う事でクレジットの限度額などの問題を避けられた。

卒業後の進路について

1) 進路

就職 進学 未定 その他:

2) 進路決定の際に参考にした資料、図書、機関など

特になし

3) 就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。(内定を得た企業すべての名前、或は入社すると決定した企業の名前のみでも構いません)

※1～3年生で、就職活動をこれから始める場合は、差し支えなければ現時点で希望する業界、職種等を教えてください。

4) 就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスをお願いします。

(例: 留学中の就職活動へ向けた準備、帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。)

※1～3年生で、就職活動をこれから始める場合は、留学経験を通して就職活動に対する意識や希望する就職先の変化等を教えてください。

5) 進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。

カリフォルニア州立大学ロングビーチ校

6) 進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)をお願いします。

自身が何をしたいかを明確に決めておく必要がある。

7) その他を選択した方は、留学希望者に向けたアドバイスをお願いします。



留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。例：語学試験の勉強、選考、出願、留学中の中間試験、期末試験、その他イベント等

2016年 1月～3月	
4月～7月	TOEFL の勉強
8月～9月	TOEFL の勉強および留学の申し込み
10月～12月	明治での GPA 上げ、選考
2017年 1月～3月	様々な申込書類の記入
4月～7月	留学に関する国への申請
8月～9月	英語にひたすら慣れる訓練
10月～12月	積極的に授業に参加していく。期末試験
2018年 1月～3月	冬休み兼春学期開始
4月～7月	期末試験、帰国、帰国届提出
8月～9月	
10月～12月	

留学体験記

留学しようと決めた理由	前々から日本の外側に興味がありました。もちろんそれ自体はテレビやネットを通してであったり日本にやってくる留学生と会話すればある程度は分かることでありましたが、しかしそういったものはあくまで自身が日本にいる、という前提で成り立つものです。たくさん後ろ盾があって、いざという時は他人を、つまり日本を頼れるという状況ではおそらく外側を知ることなどでできない。そう感じたのが留学の主な理由です。自身がマイノリティーになるという経験—それはつまりマジョリティーを知ろうとする経験に他なりませんが一の為はこういった形が一番効果的だと考えました。
留学のためにした準備、しておけば良かったと思う準備	語学力もちろん大事ですが、それは生活の中で(積極的に取り組む限りにおいて)獲得できるため、さして重要視はしていませんでした。それよりもむしろ気を払っておくべきは海外(正確にはその国ですが)におけるタブーの存在です。何故かという、文化に違いはあれど、されて嬉しい事は比較的一致している一方で、されたくないことには違いが見受けられるからです。私が言った個所はアメリカでしたが、そのような多民族国家だとしても相手に無礼を行うのは関係上よろしくありません。また、相手も多少気を使って嫌な事でも指摘しないでくれるかもしれませんが、それは決して許容されているというわけではなく、関係の悪化につながるの間違いありません。そのため、あらかじめ(そのようなタブーに無関心ではないという姿勢を見せるためにも)そういった事は学んでおくと思いいます。
この留学先を選んだ理由	アメリカは多民族国家であるために、言い方を変えるならグローバル化の影響を最も受けている国であるために、そういった環境に入るのは現在を知るうえで最も適切のように思いました。アメリカの凋落が近年叫ばれていますが、むしろそれ故に、今のうちに行っておこうという気持ちもありました。学生として行く国として選んだから、というのもその理由です。例えば旅行としていけばほかの国でも問題はない、というよりもその国の民族性が体験できるためむしろ魅力的だと思いますが、現在の世界を学ぶという目的で選んだ場合は、多様性がその国の個性と化しているアメリカが最も正しい選択であるように思えました。
大学・学生の雰囲気	よく言われる内容として、「アメリカの学生は勤勉である」というのがありますが、あれは完全な間違いです。勤勉かどうかは結局本人に左右され、国民性は二の次だという事が分かりました。しかしだからといって勤勉な人間がいないというのも間違いです。むしろ日本よりも課題などが厳しい分そういった人間は目立つ上、どんどん成長していきます。とは言え別に殺伐としているわけではなく、そのような人々も基本的には明るいのです。大学の雰囲気もいつも明るいのです。寂しくなるという事はないかもしれませんが、その分一人の時間が欲しくなることがあるかもしれません。
寮の雰囲気	寮の雰囲気は明るく、過ごしやすいものでした。六人ごとのグループで三つの部屋を二人ずつ共有していくという形でしたが、その六人グループだけでなく他の人とも、例えば食堂で落ち合う事で話したりすることはありました。パーティーなどの類には参加しなかったのですが、そうだとすると日常生活を過ごすうちにルームメイトや隣人たちとは仲良くなれました。寮を選ぶ際にどのようなルームメイトと過ごしたいかを聞くアンケートのおかげで、自分と似た環境を好む人たちが集まったので仲良くなりやすかったのもあるのかもしれませんが。
交友関係	そもそもあまり交友関係は広い方ではないのですが、それでも数少ない友人はできました。確かに語学力を上げるためには友人との会話が不可欠なのですが、しかし言語関係なく人と話すのには話題の共有が必要です。そのため、結果的に似たような境遇の人たちと頻りに話すようになりました。また、会話に歳が関係してこないアメリカの文化も手伝ったのかもしれませんが、友人の年齢層は同い年から自分の親より年上の人間まで非常に幅広かったです。
困ったこと、大変だったこと	やはり言語です。正直、留学から帰ってきた今現在でさえ「誰とでも英語で会話ができるのか」と聞かれるとイエスとは言えません。何故なら一口に英語といっても、地方や母語に引きずられたなまりが存在するからです。もちろんそういったものも慣れですので、例えばルームメイトや初めは全く聞き取れなかった隣人の英語も次第に分かってきます。しかしアメリカはその多様性ゆえに、普段聞いてないなまりで喋られると分からなくなるという事が起きます。そういったものは教材やニュースなどを用いても解決できない問題であるため、苦労しました。

学習内容・勉強について	私はインターナショナルスタディを中心に勉強しました。その授業では課題や発言を求められる機会が極端に多く、それ故非常に学ばされることも多かったです。授業を受けた後、教授の下へ行き質問をするもよし、考えをまとめた場合は後にメールで送るもよし、深く話し込みたかった場合は専用の時間(オフィスアワー)を使用するもよしと、生徒が進んで学習するための機会も多く盛り込まれていました。英語に関しては聞き取れないことも多々ありましたが、そういった部分は予習をすることでカバーしました。
課題・試験について	課題は基本的に多かったです。とは言えそれらはことごとく予習の一部という形だったので、そういう意味では自然だったのかもしれませんが。日本の授業と違い意見を頻繁に求めるが故にその基礎となる前知識を授業前に入れておくという形だったので、教授たち本人はむしろ課題と言うより授業準備というような捉え方をしているようでした。試験に関してはそのような課題を重視するが故にあまり比重がかからない場合や、その逆もありました。試験形態は選択や穴埋めなどのオーソドックスなものから記述試験まで幅広かったです。
大学外の活動について	大学外では基本的に活動はしていませんでした。というのも、向こうではひたすら勉強に打ち込んでいたためです。課題をこなし、授業に出て、教授と話し、その教授が紹介してくれた講演会に出席し、その意見を交換し、といったようなことを繰り返していました。そのため、大学外に出る事がそもそもありませんでした。ただ、授業によって出された課題の中に、外部のコミュニティに参加するようなものはあったので、その際は近隣の人たちとともに礼拝へ行きました。
留学を志す人へ	結局、アメリカにしようが日本にしようがやるべきことは常に自身を追い込むことなのではないでしょうか。確かに海外に行けば自分がやるべき最低限度の課題は増えますが、それでもたかが知れています。英語といっても生活できるレベルなら9か月を全て使えばお釣りが来ますし、課題の量だってあくまで最低ラインです。なので問題はそうした課題を全てこなしたうえで、自分からいかに課題を背負い込めるかという事なのではないでしょうか。自分を甘やかせる状況においてなお自分に厳しくするというのは難しい事ですが、その分重要な事かと思えます。

一週間のスケジュール(例)

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
午前中	予習	授業	予習	授業	自習	復習	買い出し
	授業	授業	授業	授業	自習	復習	買い出し
午後	予習	自習	予習	自習	自習	自習	予習
	授業	自習	授業	自習	自習	自習	予習
夕刻	夕飯	ジム	夕飯	夕飯	ジム	夕飯	夕飯
夜	就寝						